

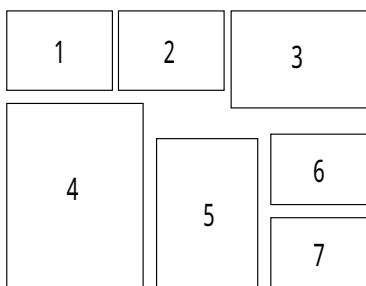
鳥取県版鳥獣被害対策マニュアル

鳥獣対策 虎の巻



平成21年3月

鳥取県



- 1 ハシブトガラス
- 2 ツキノワグマ
- 3 ニホンジカ
- 4 地域ぐるみの柵設置
- 5 イノシシ
- 6 アライグマ
- 7 ヌートリア

はじめに

近年、イノシシなど野生鳥獣による農作物等への被害が拡大しており、全国的な社会問題となっています。

鳥取県においても、イノシシによる被害は中山間地域を中心に市街地周辺まで広範囲に発生し、カラスによる梨やスイカなど本県特産物への被害も続いています。また、シカの個体数の増加に加えて、外来生物であるヌートリア・アライグマの生息域の拡大も新たな問題として懸念されます。

これら野生鳥獣による被害は、農林水産物の被害金額だけの問題ではなく、耕作を続ける意欲を減退させて耕作放棄地の拡大を招き、中山間地域での定住意欲を減退させる要因にもなっています。

そこで県では、鳥獣被害総合対策事業により侵入防止柵の設置や捕獲対策を支援するとともに、「カラスの学校」などのセミナー等を開催し、効果が高い対策技術の普及を図っているところです。

また、各総合事務所に「イノシシ等被害防止相談窓口」を設置して、県民の皆様からの御相談等にお応えする体制を整えるとともに、「鳥獣・里山塾」の開催により地域で技術支援を行うイノシッ士（鳥取県鳥獣技術士）を養成するなど、県民協働で被害対策を支援する体制づくりを進めているところです。

その結果、近年、集落ぐるみで侵入防止柵を設置するなど効果的な取組が県内各地で進められつつあり、被害額も年々減少傾向にあります。

これら現場での取組事例をもとに、県内全域に効果の高い対策を普及していくことを目的として「鳥取県版鳥獣被害対策マニュアル“鳥獣対策 虎の巻”」を作成しました。

本マニュアルは、これまで県内各地の現場に出かけて、被害の実態把握や対策指導の普及に当たった際の実例を含めて、これらの結果を踏まえた集大成としてとりまとめています。

その内容は、対策の基本的考え方を示した上で、鳥獣別に生態・行動特性に対応した対策方法を解説するとともに、侵入防止柵の設置方法など具体的な技術についても平易に紹介しています。

今後、このマニュアルが、県・市町村・農協等の担当者はもとより、イノシッ士など地域の指導者、集落・農家のかたがたに広く活用され、鳥獣被害がさらに減少していくことを心から念願するものです。

平成21年3月

鳥取県農林水産部長 鹿田 道夫

目 次

はじめに

目 次

第 1 章 鳥獣被害対策の基本的な考え方	1
1 野生鳥獣による農作物等の被害状況	1
2 なぜ、鳥獣による被害が増えたのか	3
3 対策の基本的考え方	8
4 新たな課題 外来生物の脅威>	16
5 住み続けられる農山村を目指して	19
第 2 章 鳥獣別の対策	21
1 イノシシ	21
2 シカ	33
3 クマ	39
4 サル	48
5 ニートリア	55
6 アライグマ	62
7 カラス	68
8 カワウ	78
第 3 章 具体的な技術	83
1 侵入防止柵の設置方法	83
2 イノシシの捕獲方法	107
3 イノシシの解体処理方法	111